

平成 30 年 10 月 25 日

平成 30 年度第 2 回
いわき市食育推進協議部会議事録

平成 30 年度第 2 回いわき市食育推進協議部会 議事録

1 開催日時： 平成 30 年 10 月 25 日（木） 14：00 ～ 16：00

2 開催場所： 総合保健福祉センター 3 階 健康学習室

3 議事案件及び発言内容等

(1) 協議事項

○第 3 次食育推進計画（素案）について

委 員 長	はじめに、「第 3 次食育推進計画（素案）について」事務局より説明をお願いします。
事 務 局	（第 3 次食育推進計画（素案）について説明） ○会議資料 1 により 第 3 次食育推進計画（素案）について、素案全般と第 2 章として、平成 30 年 5 月に実施した食育アンケートの結果と第 2 次食育推進計画の目標達成度及び今後の計画における課題等について、説明を行った。 また、今までの素案を作成する上で、再度、内容を見直し、修正した箇所について、別紙対照表より説明した。
委 員 長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委 員 E	素案の 19 P の肥満傾向について、全体の肥満の割合が約 20%となっているが、適正体重の割合が約 80%近く大半を占めているので、この肥満である 20%という数字に対して、問題はないという解釈か？
事 務 局	肥満に関しては、第 3 次計画で素案の 42 P のライフステージで学童・思春期～壮年期まで、「適正体重について理解し、肥満や痩せを予防する」という取り組みを行う考えでいる。
委 員 E	適正体重に関する児童・生徒の割合は数字上では達成されているが、食育として、肥満数を減らすという考えはないのか？

事務局	肥満児の割合を下げることを目標としないというわけではなく、指標を設定するにあたり、肥満だけでなく痩せも問題となっており、目標設定を「肥満を減らす」又は「痩せを減らす」といった選択肢がある中、これまでの会議で「適正体重の割合を増やす」という取り組みを行う形となったので、このような表現となった。
委員長	県等はどのようになっているのか？
事務局	県の第3次計画においては、「小学校児童の栄養不良や肥満、やせ傾向の割合」として、基準値がH26年時で3.5%となっており、目標値としては低下を目指すとしている。
委員 C	素案P37の(7)で栄養成分表示を行う飲食店を増やすとあり、大手企業は栄養表示等を行っているが、現在において、地元の中小企業の飲食店は行っていない場合も多く、今後、これらを実践していく中で、アドバイス等を保健所で行っていただくことという考え方でよいのか？
事務局	そのとおりです。事務局として、栄養成分表を行っている飲食店や健康に配慮している飲食店の増加を目標としていくことを考えているので、今後、いきいき iwaki 健康応援店に興味のある飲食店については、アドバイスを含め、相談に応じますので、保健所に紹介してほしい。
委員 C	現在、自分を含めて、取り組みを考えている食堂もあるので、そのときはお願いしたい。
事務局	分かりました。
委員 J	素案P31の指標の⑨で第2次計画では概ね達成したというが、アンケートでは個人の判断での知識があるという結果であり、現実でのアレルギーの理解と乖離しているのではないかと。思うことが多々あり、P32の主な要因として、「健康や食物アレルギーに関する意識の高まり」とあるが、この表現では問題があるように思える。
事務局	どのような表現が適切であるか、ご助言いただければお願いしたい。
委員 J	アレルギーに関しては、「関心が高まっている」とした方がよいのではないかと。意識が高まっているとなると、自分の知識が間違っていないとの認識になってしまう恐れがある。
事務局	緑川委員から御意見を頂きましたが、「関心が高まっている」との表現でよいのか、審議をいただきたい。

委 員 長	表現について、委員の皆様どうですか。
	(特になし)
委 員 長	この表現で良いのではないかな。
委 員 G	素案 P 38(5)の「学校給食における地場農産物を使用する割合を増やす」の項目で、P 31 の評価において、現状値を出していないが、市民の方にもまだまだ不安をあおるような数値が出ているのか？ 会社が農業生産法人であり、畑の土壌を検査した土地の作物を年に 1 回必ず放射能検査をし、その作物で加工品等を作っているが、そこまでやっても、ほとんどいわき産のものが出ない現状をみると、まだまだ影響しているので数値が出せていないのか。
事 務 局	P 31 の評価については、第 2 次計画策定時に地場産物の調査を当時の福島原発の事故の影響により、取れなかったことから、現在の調査結果との比較ができないというものであり、現在の数値は出ている。
委 員 A	第 3 次食育推進計画の数値目標の⑤の学校給食に係る地場産物の使用する割合で第 3 次計画における現状値と目標値の数値がほぼ同じであるが、増やせない理由があるのか？
事 務 局	これらの食材（食材の種類）を取り扱っている部署では、現在、これ以上の食材数の増加について、数的に厳しくなっている。当然、増加を目指して進めなければいけないところであるが、担当課からの現状等を鑑み、また、国の目標値が 30%というところも踏まえて、今回の現状維持という目標値とした。
委 員 長	今回、欠席されている F 委員から文書で意見を頂いているので、事務局から発表していただきたい。

事務局	F委員から、素案に関する意見として、 P20の歯と口の健康状態について、追記してほしいとの要望があり、 1 歯と口腔の推進条例がされ、フッ化物洗口が進められているが、行政負担により、無料でできるのに保育園・保育所に留まっていて小学校に普及していない。 2 就学前から小学校へと継続して行ったほうが効果が高いことであり、フッ化物洗口は最も安価で予防効果が期待できる方法である。 3 健康格差といわれているが、お口の健康も同じでむし歯の子と全くない子が同じ教室で過ごしている状況があるので、お口の健康格差をなくしていくためにも必要です。 健康食品の適切な摂取方法について、いわき市食育協議部会として見解を述べてはどうでしょうか。 との意見を頂戴した。
委員 B	F委員の意見について、「むし歯の有病率がフッ化物洗口を小中学校で行っていないから数値が悪い」ということの科学的な根拠があるのか。全国的に見てフッ化物洗口を行っている自治体は少ないと考える。また、有病率についても、学校だけの問題ではなく、経済的な問題や家庭環境等もあるのではないかなと思う。学校の現場として、フッ化物洗口を実施することは、時間的な制約がある中で、なかなかできない事情がある。 県からもフッ化物洗口に関する説明を受けたが、その中でフッ化物洗口に係る準備等を各学校で行うことや、また、子供たちの衛生面でも、どのような物でうがいをするのか等の具体的なものが何も無いまま示されてきた経緯がある。 また、フッ化物洗口を行っていないから、むし歯の有病率が高いとされているが、他にもっと違う視点からのアプローチはないものなのか。
事務局	フッ化物洗口の表記に関しては、事務局で検討したい。
委員 E	フッ化物洗口については、学校と歯科医師会で内容を詰めていく必要であるのではないかな。 本当に意味がないものなのか、また、他の原因があつてむし歯ができるのか等を検討していく必要があるのではないかな。

委 員 I	昨年、フッ化物洗口のモデル事業として小学校1校を行ったが、現在、モデル事業として取り組んでいるという段階であることを踏まえ、掲載することを慎重に検討すべきであるとする。
委 員 A	いわき市保健医療審議会でむし歯が多いとの話があり、1歳半ではむし歯のない子がほとんどだが、3歳児検診ではむし歯の子が急激に増えているという状況である。その中で歯が生え始まったころにフッ化物塗布を行っている地域ではむし歯の子が少ないということもあり、フッ化物洗口をモデル的に実施しようという経緯があった。学校でも実施する場合、いろいろ問題等もあるかと思うが、それらをクリアしながら、いわきの子ども達にできるような環境を作っていければと思う。 食育の一環として考えられるものであり、また、それぞれの立場での考えもあるかと思うが、この議論がフッ化物洗口だけに焦点がいつってしまうので、今後の検討課題ということで進めればよいのではないか。
委 員 K	うちの幼稚園では、フッ化物洗口を20年以上実施している。背景にはPTA会長が歯科医師会の方であり、また、福島県は全国ワースト3に入る位にむし歯が多い地域であることから、佐賀県でむし歯予防のため、フッ化物洗口を行っているとの事例があったことから始めたところである。現場の負担もかなりのものでもあり、必ずしもフッ化物洗口がむし歯の有病率に影響を与えているものでもないですし、家庭格差もあるが、こどもの健康を育てるという意味においては、歯磨きやフッ化物洗口、食べ方もあり、歯を守ることも1つの食育になるので、参考となればと思う。
委 員 H	今回の対照表で、「いわきっ子・いきいき健やか食育教室」の削除について意見がある。 現在、保健所や幼稚園等で実施している栄養相談以外の方について、「いわきっ子・いきいき健やか食育教室」として、食育教室へのご案内をしているが、今後は幼稚園・保育所へ案内するという方向でよいのか？
委 員 長	再度、「いわきっ子・いきいき健やか食育教室」を削除した理由をお願いしたい。
事 務 局	食育に関するアンケートで朝食欠食や肥満度の数値が高い青年期・壮年期に関する取り組みを重視した結果、今回文言として削除した。

委 員 H	保育園前の乳幼児の離乳食について、お母さんの調理力が重要であり、それに関する栄養相談を行っている。一つの例として、こちらとしては、1歳まではミルクで育ててほしいと考えているが、10ヶ月くらいで、幼児用のイオン飲料を飲ませようとするお母さんがいることや、離乳食は全て市販されているベビーフードで良いと思うお母さんが増えてきている。食育は小さいお子さんから始めることで、効果があるものと考えており、先ほどの高校生以上について、朝食を欠食する人や肥満への取り組みを重点的に行うとあるが、今更感が強いのではないか。やはり、小さいお子さんからちゃんとした食事を行うべきではないか。
委 員 E	おっしゃる通り、食の根幹に関わる問題と思う。高校生を対象を当てても、すでに遅いと思う。 改めて、小さいうちから教えていくことが重要であるのではないか。
委 員 D	上の子どもが小学校6年生の男の子であるが、小さいころから出汁を取ることや、調理したことを覚えていて、野菜を食べることや朝食を摂ることが習慣づけられており、当たり前という考えになっている。これらを考えると、高校生になってからの対応では遅いのではないか。
事 務 局	「いわきっ子・いきいき食育教室」という、事業に関する文言を削除する考えであり、その他の事業は継続する。
委 員 長	その他として、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
	(質問、意見等なし)

3 その他

委 員 長	その他として、いわき市食育推進協議部会について説明をお願いします。
事 務 局	資料2により説明。 食育推進委員の任期が今年度で満了となることから、役員の改選をお願いしたい。来年には、いわき市の附属機関の委員の選任基準により、見直しを考えている。今後、個別により対応させていただくので、ご協力をお願いします。
	(質問、意見等なし)
委 員 長	その他として、事務局で何かあれば発言をお願いします。

	(質問、意見等なし)
委 員 長	事務局から、報告事項があればお願いいたします。
事 務 局	福島県と市が主催で11月3,4日に福島県健康長寿フェスティバルを開催し、保健所でも健康相談コーナーを実施し、健康推進員の方の野菜350gぴったりチャレンジコーナーもありますので、ぜひ足を運んでいただければと思う。
委 員 長	他になければ、本日の案件はすべて終了いたしました。 御協力ありがとうございました。
	(委員会終了)